

令和5年度 第1回 千代田区教育ICT推進委員会 会議録

日時 令和5年6月30日（金） 午前9時00分～午前10時30分
 場所 千代田区役所 4階 教育委員会室

議事日程

開会
 あいさつ
 委員紹介
 正・副委員長選任
 事務局報告（これまでの取組等）
 意見交換（現状の成果と課題等）
 事務連絡
 閉会

出席者（10名）

信州大学 教育学部 准教授	佐藤 和紀
山梨大学 教育学部 准教授	三井 一希
お茶の水小学校・幼稚園児童保護会 会長	原 直樹
麴町中学校PTA 会長	高田 理尋
九段中等教育学校 PA 会長	岡野 誠
富士見小学校 校長	小牧 来太
神田一橋中学校 校長	盛谷 樹
九段中等教育学校 校長	野村 公郎
教育委員会事務局子ども部 教育担当部長	大森 幹夫
教育委員会事務局子ども部指導課 課長	山本 真

事務局（6名）

統括指導主事	内山 宝
管理係長	横井 新一
指導主事	塚田 恭平
指導主事	相場 奨太
主事	松浦 洋介
主事	平山 美紅

相場指導主事

定刻になりましたので、始めたいと思います。
 おはようございます。
 本日は、ご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、第1回千代田区教育ICT推進委員会を開会いたします。

私は、子ども総務課指導主事の相場と申します。委員長が選任されるまでの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

開会に先立ちまして、ご案内ですが、本日、信州大学の佐藤和紀先生、山梨大学の三井一希先生、麴町中学校PTA会長の高田様は、オンラインにてご出席でございます。

なお、議事要旨を作成する都合上、本会議は録音させていただきますので、ご了承ください。

それでは、初めに、教育長の堀米より皆様にご挨拶いたします。

教育長、よろしくお願い致します。

皆さん、おはようございます。教育長の堀米孝尚と申します。

委員の皆様、早朝より本日はご多用のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、リモートでも参加していただきまして、ありがとうございます。

本区では、令和2年の秋に、全ての児童・生徒に対して、一人一台のタブレットを配付いたしました。子供たちの主体的・対話的で深い学びの実現のために、より効果的な活用が図られるよう、学校と教育委員会で共同して研究と実践を重ねてまいりました。予想困難なこれからの時代をたくましく、しなやかに生きていく子供たちを育成するために、これまでの実践を振り返り、成果と課題を明確化し、今後の目指すべき方向性を見極めるとともに、子供たちの深い学びの推進に向けて、タブレット端末を含めた教育ICTをより効果的に活用し、お手元にあります「ちよだスマートスクール」のさらなる充実を図ることを目的として、本委員会を立ち上げさせていただきました。私もICTについて、非常に関心をというか、教育委員会の主要施策の一つでもありますので、ぜひこの活用を日本一に引き上げていきたいと思っています。

ICTは、使うためにやるのではなくて、文房具の一つとして、いつでも自由に使えるという気持ちで思っております。鉛筆や消しゴムもいつも机に置いてありますよね、よっぽどの違う作業でない限り。そうすると、端末も、やっぱりいつでも使えるように置いておくというのが文房具の一つとしての考え方じゃないかなと。つまり、使うために何かをするのではなくて、学習を効率的に進めるために、使いたいと思ったときにさっと使える、ぜひこういう活用方法にできるように、今日お集まりの皆様のお力を得まして、どういったことをどうしたら、より活性化するんだろうかということも含めて、お話しいただけるといいかなと思っています。

本会議体は、学識経験者、保護者代表、それから、区立学校長、教育委員会事務局で構成されております。本日は、それぞれのお立場から、どうぞ忌憚のないご意見をいただきまして、活発な意見交換の場にしていただければ幸いです。

結びに、皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、挨拶とさせて

いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

相場指導主事 教育長、ありがとうございます。
教育長は、次の公務のため、ここでご退席となります。

教 育 長 よろしくお願います。

相場指導主事 続きまして、委嘱状の交付を行います。
既にお手元に委嘱状を置かせていただいておりますので、そちらをご確認ください。
なお、佐藤先生、三井先生、高田様には後日送付いたしますので、どうぞよろしくお願います。
続きまして、本日配付している資料の確認をさせていただきます。
本日の配付資料は、先ほどご確認いただきました委嘱状のほか、資料1、次第の下段に一覧が記載されていますので、ご確認いただき、不足している資料がありましたら、事務局へお申し出ください。オンラインの委員の方々には事前にデータを共有しております。よろしいでしょうか。
では、次第の2に移ります。委員の皆様のご紹介ですが、お配りしております資料4の名簿をもちまして、紹介と代えさせていただきます。
また、本日、第1回ということもありますので、委員の皆様から一言ずつご挨拶いただければと思います。
名簿の上から順番に簡単に自己紹介をお願いしますでしょうか。

佐 藤 委 員 はい。ありがとうございます。信州大の佐藤でございます。本日はよろしくお願いいたします。

相場指導主事 では、次、三井先生お願いします。

三 井 委 員 皆様、おはようございます。山梨大学の三井一希と申します。私の専門は、授業の中でどういうふうにICTを使うかとか、どういうふうに授業を変えていくかみたいなのところですので、またそういったところでお役に立てることがあるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

相場指導主事 原様、お願いします。

原 委 員 千代田区立お茶の水小学校・幼稚園児童保護会会長の原と申します。児童保護会というのは、PTAと一緒にですので、お見知りおきいただければと思います。本日は初めて参加させていただきますので、いろいろな意見を聞いて、今後、お茶の水小学校にも取り入れていけるように邁進してまいりたいと思います。よろしくお願います。

相場指導主事 高田様、お願いします。

高 田 委 員 麴町中学校で今年度、PTA会長をやらせていただいております高田理尋と申します。子供たちは、先ほど教育長がおっしゃっていたように、本当に鉛筆やペンになるような感覚で、タブレットを積極的に活用してもらえたらよいと思います。よろしくお願いいたします。

相場指導主事 岡野様、お願いします。

岡 野 委 員 九段中等教育学校保護者会の会長をやっております岡野と申します。ICTで、子供たちの教育環境向上はもちろんですが、個人的な希望としまして

は、ぜひ教職員の方々の労働環境もよくなったらいいなと心から考えております。少しでもお力になればと思いますので、よろしく願いいたします。

相場指導主事
小 牧 委 員

小牧校長、お願いします。
千代田区立富士見小学校校長の小牧来太と申します。どうぞよろしくお願い

相場指導主事
盛 谷 委 員
野 村 委 員

盛谷校長、お願いします。
神田一橋中学校校長、盛谷と申します。どうぞよろしくお願い

大 森 委 員
山 本 委 員

九段中等教育学校校長の野村です。よろしくお願い
教育担当部長の大森でございます。どうぞよろしくお願い
子ども部指導課長の山本と申します。いつもお世話になっております。あ

相場指導主事

ありがとうございます。
それから、事務局のほうも控えておりますので、どうぞよろしくお願い
続きまして、委員長、副委員長の選任に移らせていただきます。
本委員会は、千代田区教育 I C T 推進委員会設置要綱の規定により、教育

委 員 長

担当部長の大森部長に委員長を務めていただきます。
また、副委員長は、委員のうちから委員長が指名するとなっております。
副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理
することとなります。

小 牧 委 員
相場指導主事

それでは、委員長より副委員長の指名をお願いいたします。
それでは、副委員長は、富士見小学校の小牧校長先生をお願いしたいと思
います。よろしくお願い
お願いいたします。
では、副委員長は、小牧校長先生、よろしくお願い
委員長、副委員長が決定しましたので、ここからの進行は委員長にお願い

委 員 長

いたします。
それでは、引き継ぎまして、進行させていただきます。
それでは、次第の4、事務局報告につきまして、事務局からお願いいたし
ます。

相場指導主事

引き続き、相場からご説明いたします。
資料5でございます。お手元、ご覧ください。
初めに、「ちよだスマートスクール」の実現に向けたこれまでの取組につ
いてご紹介いたします。令和2年度中には、児童・生徒一人一台タブレット
端末の整備、また、全ての普通教室、特別教室に大型提示装置及び実物投影
機の整備を完了することができました。令和3年9月には、顔認証システム
やシングルサインオンの搭載、アプリケーションの入れ替えなど、I C T 環
境のリプレースを行いました。その結果、セキュリティー対策の強化、利便
性の向上、操作性の向上などを図ることができました。スタート時やリプレ

ース時には、教育委員会から先生方に事業指針を示すリーフレットを配付いたしました。また、端末活用を促進するために、令和3年度末には実践事例集を作成し、先生方に配付しております。定期的に管理職、教員、児童・生徒、保護者にアンケート調査を行い、実態を把握しながら推進してまいりました。さらに、保護者向けにオンラインセミナーを実施するなど、ICTを活用した教育について、啓発をしてまいりました。これらの取組が評価され、昨年度、区立全11校が学校情報化優良校に、千代田区教育委員会が情報化推進地域に認定されました。今年度は、4月に初任者、異動者を対象にした研修を行ったり、児童・生徒向けのICT活用ハンドブック（デジタル版）をタブレット端末に配信したりするなど、次なるフェーズに向けて取り組んでいるところです。

ここで、次の資料へめくっていただきまして、参考までに幾つか調査結果をご覧ください。この資料は、年度末に毎年行われている教員のICT活用指導力に関する国の調査結果です。詳細は時間の都合上、割愛させていただきますが、全国の教員と本区の教員の結果を比較すると、全ての項目の平均値よりも上回っていることが分かります。

次の資料は、区内の児童生徒に調査した情報活用能力に関する調査結果です。小学校低学年、それから中学年、高学年、中学校、中等教育学校と、発達段階に分けてまとめています。赤いマーカー部分は、「当てはまる」の回答率が50%以下の設問項目です。こちらも後ほどゆっくりとご覧ください。

最後の資料になります。「ちよだスマートスクール」の現在地と今後の方向性について、お話しさせていただきます。本区では、教師と子供がつながる学び、子供同士がつながる学び、子供自身が学習方法を決める学びのロードマップを示しています。教科や単元、学校種や子供たちの発達段階、先生によって違い、緑の丸部分までいっていることもありますが、現在、多くの先生が赤丸、真ん中ですね、子供同士がつながる学びの入り口に入ったくらいかなというふうに、学校訪問などで授業を拝見して感じているところです。教師が授業改善を図り、ファシリテーターとして子供に委ねる、任せるにはどうしたらよいか、学習者主体の学びにするにはどうしたらよいか、本日、委員の皆様と意見交換をし、今後に向けた取組などを確認し合えたらと考えております。

事務局からは以上です。

委 員 長

ありがとうございます。

それでは、続きまして、次第の5、意見交換に移りたいと思います。

校長先生方、保護者代表の方々には事前に、一人一台タブレット端末を学校現場に導入したことによる本区における成果と課題、これをご提出いただきました。資料6になります。資料6を基に掲載順にお1人5分以内でご説明いただきたいと思います。

それでは、初めに、小牧校長先生からお願いいたします。

小 牧 委 員

よろしくお願いいたします。

まず、ICT環境からですが、成果としてTeamsの活用、本校ではTeamsを活用しているの、これが教職員同士の校務、岡野会長が教職員の軽減ということを言われましたが、本校ではTeamsを活用して会議を開催しています。そのため、今まであった夕方の会議がほとんど必要なく、検討するときは対面ですけれども、情報の連絡はほとんどTeamsで行っているということが徹底されております。これが教職員の中でも浸透しています。また、これが、授業、または児童への連絡方法にもTeamsを使っているの、時間短縮だとかいうことについてもTeamsの活用がなされているのではないかなと思っております。

今後の課題ですけれども、Teamsに限ると、児童に課題の提出をさせる時に児童名が出てこないということが課題です。ただ、区でも、改善に向けて対策していただいているということですので、今後改善していただけたらと思っております。

次に、教員のタブレット端末での成果ということで、事務作業とか校務です。分掌間の連絡をTeams上でチャンネルをつくり、そこで話し合いを進めているので、会議を設定しなくてもよく、効率的に情報共有が行われています。また、活用事例がタブレットの中に残っているので、それを見ることで授業改善、または校務改善に生かされているということです。

教員の今後の課題です。今後は、児童が学習方法を決めたり、使うだけじゃなくて、自分の意見を他人と共有することに、より活用ができればと思っております。まだまだ自身で使うだけということにとどまらせているので、学習の共有、意見の共有にこのICTが使われればと思っております。

最後に、児童・生徒の成果、タブレット端末を使用しての成果です。小学校の学習だとローマ字の学習は3年生で学習します。ただ、今は当たり前のように小学校1、2年生でもタイピングをするという現状があります。だから、もしかしたら先程の調査もだんだん上がってくるのかなと思います。本校でも、低学年のうちからタイピングとか、クラウド上に上げるということも当たり前のようにやっています。それはいい成果かなと思っております。

今後の課題です。これも先ほど指導主事が言っていた方向性に関わりますが、今までは教師がこれをやりなさい、このアプリでやりなさいというふうに言っていたところがあるんですけども、これからは、学習者自身がそのアプリを選択していく、今回、こういう学習をしたいから、このアプリを選択しようとか、この計算式を使おうとか、そうできるといいのかなと思っております。以上です。

委員長

小牧校長先生、ありがとうございました。

続きまして、盛谷（もりたに）校長先生、お願いいたします。

盛谷委員

改めまして、盛谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

すみません、皆さんの形式とはちょっと違うのが、昨年度から千代田区の指定を受けまして、研究協力校として校内研修を進めていますので、それをメインにお話しいたします。

まず、今日、オンラインで参加していただいています信州大学の佐藤和紀先生に、昨年度からご指導いただきまして、3年間の予定の研究を進めています。研究主題は、「ちよだスマートスクール」を活用した学び方、教え方、働き方改革の推進です。今現状としてどんなことがあるのかというところを率直にお話しできればなと思っております。

まず、いろんなところで言われていることですが、日本全国どの学校でもICT環境というのは随分整備されています。そのため、ICTを活用した教育を推進するというのが、教育界全体の大きな目標になっているわけです。その中で、協働的な学びであったりとか、個別最適な学びというのを一体化して、ICTを活用しながら進めていくというのが、現在の教育界の流れかなと思っております。資料の中にあります、学び方、教え方、これについては、昨年度から全教員が教科指導の中で、「ちよだスマートスクール」のシステムを活用して、指導方法の研究に取り組んでまいりました。また、教科ごとの部会がありまして、その中でお互いの授業観察であったりとか、活動の事例を共有し、最終的には教科主任の下、全教員に報告・共有するという形を取っています。また、働き方については、校務分掌ごとに効果を発揮できるようなシステムの検証というのを昨年度から取り組んでおります。

お手元に、ご準備いただき、非常にありがたかったのですが、幾つか資料がありまして、この資料は相場指導主事に作っていただいた資料ですが、これの5ページ、6ページを見ていただくと、「ちよだスマートスクール」で、17の目標というのが設定されているんですね。その中の一つ一つに、例えば1番目の情報収集をしようというところについてやると、後ろのほうに行きます、こういうふうな活用をソフトを使ったらできますよという形で、本当に1対1の関係でつながっています。そのため、本校の教員も本当に冊子とかを活用しながら、それぞれの教員が同じレベルで「ちよだスマートスクール」の活用をどんどんどんどん進めていくことはできています。非常にありがたいなと思っております。

また、いろんな先生が取り組んでいる内容が、自分が使っているソフトと基本的に共有していますので、活用の幅というのもどんどん広がるような今、状況かなというふうに思っております。

また、佐藤和紀先生のほうから昨年度、汎用性の高いソフトを活用した方がいいというアドバイスもいただきました。スタートとすると、例えば意見の共有はコラボノートがいいとかというようなこともあったんですが、今、だんだんとマイクロソフト365の中に入っているTeamsであったりとか、OneNoteというのをいろんなところで活用していく流れになっています。これは教員だけではなくて、生徒に課題を出すとか、そういうときにも活用するようにしています。

また、働き方については、データの共有、先ほどもありましたけれども、Teams上で会議を、資料を共有したりとか、そういうことをどんどん進めていっていることで、ペーパーレス化とか、データの保存管理というのも

どんどん進んでいっている状況です。ただ、実は見えてきたことがありまして、それについては、ちょっと後半のところでお話しさせていただければと思います。

まず、教え方、学び方についてなんですが、先ほどのとおり、1対1の対応で、これをやるためにはこのソフトを使うとかというふうになっているので、かなり協働的な学びについては、教員のほうも比較的取り入れやすいという意識があります。ただ、じゃあ、個別最適な学びをそれを使ってやりましようとなると比較的難しいと感じる教員が多いんですね。原因はというと、ご想像いただけたと思います。今までが一斉授業で、自分の計画どおりに授業を進めていく、この部分を教えようと思っている内容を1時間の中で伝える、それをメインにしている授業だったんですね。ただ、個別最適な学びとかという話になってくると、なかなかそれでは太刀打ちできない状況になっています。ただ、その意識を脱却するというのはなかなか難しいという教員が多いんですね。ですので、授業スタイルを教員主導の一斉の形から生徒主体の授業であったりとか、複線化ってよく言われるんですけど、例えば生徒個人が内容を考えるとか、方法もまた自分で考えるとか、進捗の差がある形で、複線化の授業というふうになんかちょっと転換できるような指導方法の再構築というのを今後、進めていかななくてはいけないのかなと思っております。

次、働き方についてなんですが、先ほどペーパーレス化などというのが、データ化するというのは割と簡単に進んでいます。ただ、それに反して、膨大にある今までのデータをどう整理して、削除していくかというところについてのルール化とか、そういう部分については個人任せにはできないので、全体での約束決めであったりとか、そういうのを明確にしなきゃいけないかなというのが出てきました。

また、本当に、これ、働き方のところに関わる根幹の部分かなと思うんですが、特にマイクロソフトのTeamsとか、OneNoteを活用して、いつでもどこでもアクセスできる、活動できるということがどんどん進んできてはいるんですが、その反面、学校以外でも勤務をしなきゃいけないというふうな、そういった間違っただけの捉え方をしているという傾向も多少あるので、そこをどううまく学校だけで仕事をせざるを得ないという環境から、いろんな、家庭環境もありますので、働き方を多様化できるようなシステムなんだというところをちょっと教職員のほうには理解させつつ、いつでもどこでもやれる。例えば通勤の電車の中で情報を共有するとか、朝一で伝えようと思っている内容をTeams上に上げて、見てもらえば済むというふうになんかちょっと変えられるような意識の改革も必要かなと思っております。

今後も進めていまして、来年度に発表をしますので、ぜひ発表も楽しみにしていただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。以上です。

委員長

盛谷委員、ありがとうございました。

次に、野村委員、お願いいたします。

まず、ICT環境についてですけれども、九段中等の場合は1年生から6年生までということで、処理能力というか、生徒に求められるものが変わってきますので、同じパソコンだとスペック等が足りなくなってくるというところがあるんですね。そういったものを考えていく必要がありますし、もうほぼ授業の中で生徒、タブレット使いますので、電池の問題です。充電しなくても、切れてしまう。フルで使っていてももう1限目からずっとタブレットを使っていると、要するに電池がもたなくなってきた途中で充電をする。だけど、充電する場所には限りがある、要するに何か所かしかないですからね。教室の中に一、二か所しかないですから。一応、充電の場所も用意されていますけれども、そういったこと環境という面では考えなくてはいけないだろうなど。生徒の机1つにコンセントがあればいいんですけどね。そこまでする、考える必要が本当にあるのかなと思います。

それから、Teamsなどで会議ができるんですけど、Teamsがもう閉じられた世界なんですね、外部の人を呼べない。東京都と違うところ、東京都は外部の人を呼べるので、幾らでも外部の人と会議というのはTeams上でできるんですけど、それができない。別の例えばほかのテレビ会議システムのものを使っていかなければいけない。今、開発委員会という外部の委員にも入ってもらって会議進めているんですけども、アメリカ在住の方にも入ってもらっているんですね。そういったときに別のテレビ会議システムを行っていかなければならないというようなことがありますので、そこは考え直していかないといけないだろうなと思いますし、ソフトについてですけれども、教育に有効なソフトって結構あるんですね、その学校学校に。特に中学校1年生から高校3年生という、もう大学入試も考えて、大学に入っていく上での、大学もデジタル化されていますので、そこで体験したりということになってくると。いろんなソフトがありますので、そういったものをより素早く導入できるような形にしてもらわないといけないなと思っています。必要なものを申請しても、ずっと申請しないとなかなか導入できなくて困っている。特に、保護者とのやり取りというもの、「すぐー」あるんですけど、あれ、一方通行なんですね。一方通行ではなくて、双方向でやり取りしていかないといけないと思うので、そういったものに有効なものに変えていくということも必要なんだろうなと思います。

教育DXでデジタル化はもう進んでいるんですけども、トランスフォーメーションのほうですよね、そちらを進めていくということになれば、セキュリティも大事、セキュリティをあまりにがんじがらめにすると使い勝手がよくない。先ほど、事務局の説明で、セキュリティも高まって、使用も活用しやすくなる。それが理想ですけど、この2つって相反するところがあるので、それをどうしていくかというのが大事なのかなと。セキュリティは本当に大事なので、そこ、でも、そちらを高めると使い勝手がよくなるので、使わなくなっちゃうんですね。だったら面倒くさいので、もう昔ながらの黒板、トーク&チョークでできちゃうってなっていくのは、これは生

徒にとってもよくないことですので、そこを考えていく必要はあるかなと思います。

教員側のリテラシーも大分高まっているんじゃないかなと。例えば今までですと、災害等があった場合、大雨警報が出た場合には休校という形を取っていたんですけども、教育委員会とも話して、本校ではもうそれをしないよと。登校が危険であればオンライン授業できるから授業やるよ、オンライン授業やりますよということをやっていますけど、そのように環境がどんどん変わってきている。それができるような形で教員も生徒もそれだけのリテラシーなり、持っているということになりますので。協働的な学びもそうで、個別最適な学びってデジタル化が一番適していると思うんですね。例えば問題で、よくやっているのが、課題プリントを出した場合に、ある一定のところ、分かる生徒と分からない生徒が出てくるんですけど、これも前の学校でやっていたんですけど、その問題に対してQRコードをつけて、そのQRコードをすると、問題解説のところ飛んでいくんですよ。その学校の専用ユーチューブというのを私、すぐ作って、やっていたんです。そこに解説動画を先生たちが上げていて、この問題に困ったら、そこに飛んでいくようにしている。そうすると、分かっている生徒はどんどん進んでいくし、分からない生徒はそこに立ち返っていくというようなことができますので、そういったことをどんどんやっていくことで、個別最適な学びということも有効にできていくんだろうなと思います。

非常に有効なことですので、ぜひ日本一を目指してという、世界一を目指すぐらいの有効活用ができればいいなと思っております。以上です。

委員長

野村委員、ありがとうございました。

次に、保護者代表の方々からお話を伺います。

初めに、お茶の水小学校・幼稚園児童保護会会長、原委員、お願いいたします。

原委員

今日は保護者の視点からということで、大変恐縮なんですけど、まず、ICT環境の成果ということで、区から支給していただいているサーフェスとか、家でもパソコンやタブレットが、子供たちだとNintendo Switchとか、いろいろあると思うんですけど、そういうところでICTに触れる機会が増えていると思います。一律にサーフェスを支給していただいているので、家庭によって差が出ないようにして、あと、オンラインにも対応しているので、それはすごい大変助かるという意見も多くいただいております。また、タイピング能力も、先ほどおっしゃったローマ字入力等も勉強になりますので、そちらも幼いときからやっていることで、大分大きくなって、大人になってから、社会で役立つことが必ずありますので、助かっていると思います。

課題といたしまして、ちょっとやっぱり学業とか学び以外での使用のし過ぎや、どうしても動画見たりとか、楽な方向にいつてしまう。ゲームしてしまったりとか、そういうことも多いので、そちらは親がしっかり見ていかな

きやいけないのかなというところと、あと、視力や姿勢などへの配慮というところもちょっと気になっておりました。まだ、あとどれぐらい実際の、例えば紙の本を読むことと、タブレットから学ぶことという中で差が出てくるのかというのは、まだ結果が出ていないみたいなんですけど、そちらのほうも今後分かってくると思うので、しっかり注視していきたいなと思っております。

加えて、先生方についてなんですけど、私も授業参観等で拝見させていただいているベースぐらいなんですけど、大分モニターを使って迅速に画面共有ができたりとか、説明や、ネットにつながっているので、すぐに参考資料などを生徒さんと共有できるというのがすばらしいなと思いました。また、それに伴って、ペーパーレスもつながりますし、先生の負担も軽減になっているのかなと思いました。

課題といたしまして、教室によってICT機器が故障していたりとかして使えなかったときの対応が困難というのと、あと、接続や不備やフリーズで、例えば保護者会するときとか、止まってしまったりとか、ちょっとずっと沈黙が続いてしまったり、しょうがないんですけど、そういうときに少し対応が必要かなと思いました。

続きまして、児童・生徒ということで、課題のところ、充電のし忘れに注意が必要かなというのを見受けられました。授業参観とかで、やっぱりお子さんがロッカーのところにたまっている方がいて、それは充電忘れていたんで、コードをタコ足でやって、三、四人でそこにいなきゃいけないというところがあったので、先ほど野村先生もおっしゃっていたみたいに、1人、机にコンセントが必要なのかもしれないというふうにも思いました。また、ちょっと机が小さくて、タブレットを置きながら、ノート、教科書というところで、大分、生徒の皆さんも考えながら机、いろいろやっていかないといけないのかなというところも思いました。

また、あと、ランドセルが重くなっているという意見も親御さんからいただいで、しょうがないですけど、ただ、ちょっと教科書等、使わない物は学校に置いていっていいような配慮もなされているということで、今後こちらでも検討が必要かなと思いました。

ただ、一番多く保護者さんからいただいていたのが、キーボードが壊れたり、画面が映らなくなったというところで修理依頼をしているんですけど、半年以上返ってこないということで、そういう方が数名いらっしゃるということで、ちょっとそれは担任の先生が区に上げてないのか、区のほうで遅れているのかというのは分からないんですけど、そちらの対応もしてくださいということで声をいただいております。

お茶の水小学校からは以上です。

委員長

原委員、ありがとうございました。

次に、麴町中学校PTA会長、高田様、お願いいたします。

高田委員

ありがとうございます。

娘から聞いた情報を中心に話します。なお、娘が中学1年に入ってまだ3か月程度であり、娘が単に把握してないところもあるかと思しますので、その点、ご了承ください。

まず、ICT環境なんですけれども、いいところとしては友達が作成したものなどをリアルタイムで共有し、共学できるということで、リアルタイムで共に学び合うことができるというのはすごく良い点であると感じています。

それから、校長先生に聞いたのですが、インストールされているアプリが他区に比べてとても多いということで、そういったところはすごく環境としてはありがたいと感じます。

一方、課題としては、デジタル教科書についてはおそらく、中学生は国語と数学は使えることになっていると思うのですが、単に娘が把握していないだけかもしれないかもしれませんが、使ったことがあまりないということを書いていました。その活用がこれからどうなっていくのかなというところに期待しています。

それから、アプリは数多くインストールはされているんですけども、その中で実際に使っているソフトというのはそれほど多くないのではないかと、いうところも聞いています。せっかくいいものが入っていれば、もっと活用できればいいなというふうに感じます。

それから、各生徒がどの辺りでつまづいているのかを先生方が把握できて、適切なタイミングでフォローできることは教育のICT化のメリットだと感じています。これはちょっと課題のところでも記載しましたが、先生方によって若干差異があるように聞いています。

それから、タブレットにより生徒とはオンラインのコミュニケーションができ、今までは対面でしかできなかったものが、時間とか空間を隔ててできるため、よりコミュニケーションの手段が増えたのかなというところでは、オンライン活用がすごくよい点であると思います。

一方、課題のところでは、活用度合いの格差というところ、それから、ICT活用により生じた時間を、本来教員でしかできないことに使えていない可能性があると感じます。表現が適切ではないと思いますが、授業内において単に先生が楽になっただけではないかと受け取られ兼ねない、先生によると思うんですけども、場面もちょっとあったそうです。

それから、文科省のStuDX Styleや、経産省の未来の教室STEAMライブラリー、こういった中で多くの先進的な活用事例が共有されていると思いますので、そういったところを使ったFD研修を行うなどをして、より先生方の個別のスキルを教育現場にどう生かしていくか、そういったところの共有がもっとできていれば、既にできているかもしれないですけど、いいなというふうに思います。

それから、児童・生徒、こちらについては、多様な学び方が可能になったということで、これまでは教科書を読むのが苦手な方であってもデジタルデ

バイスを使った学びがすごい得意な方とか、いろんな方がいらっしゃいますので、そういった学び方の選択肢が増えた、機会が増えた、ということはとても良いことだと思います。

それから、これからの社会に向かう児童・生徒にとってデジタルデバイスを普通に使いこなすということはもう当たり前、ネイティブになっていくと思いますので、そのための環境が全員に整ったというのはすごくいいことだと思います。

一方、課題のところでは、当日にアクセスできる範囲が決まっているので、できる生徒は時間を持て余すことがあるということも聞きました。ですので、これは指導方針との兼ね合いもあると思うんですけども、本当に個別最適な学びになっているのかなというところはちょっと疑問に感じています。

それから、授業中にゲームしている生徒がいるそうで、先生が前にいるもののそのことに気付かない、ということを知っています。

あと、渋谷区もやっている教育ダッシュボードのような仕組みですね。こういったところで本当に子供たちが何に困っているのかとか、どちらかというと心の悩みのほうなんですけれども、そういったところが可視化できて、早めに対応できるといいなというふうに感じました。

これはまさにちよだスマートスクールの8の目標である「気持ちや考えを可視化しよう」です。先生方が児童一人一人の得意なことや興味持ちそうなところを発見すること、これはやっぱりもう先生のすごい重要な役割だと思うんですよね。例えば全員が全員、大学に行って、就職をするということではなくて、人によっては、ものづくりが得意で好きそうだから、中学を卒業して働くという選択肢もありますし、いろんな得意な部分とかを発見してその部分を伸ばしてあげるといふ、そういったことをできればなと思います。

そして、ちよだスマートスクールの目標17、「学校と保護者間の連絡のデジタル化をしよう」、これは実際にはあまり活用できてないのかなというふうに感じています。保護者から先生方への連絡なども、子供たちのTeamsを使ってやってほしいと言われるのですが、子供には先生とのやりとりを見られたくない相談事などで実際には活用できていないということもありますので、この辺りも課題かなと思います。

あと、最後に、授業の振り返りとして各児童・生徒が気付いたことや感じたことを必ず入力するというのは、これは絶対やったほうが良いなと思っています。最後の5分だけでも自分でその日の学びを振り返り、必ず文字に残していくという、そういったことをやったらいいなというふうに思いました。以上です。

委員長

高田委員、ありがとうございました。

岡野委員

次に、九段中等教育学校PTA会長、岡野委員、お願いいたします。

ICTの活用について、区でやっていることだったり、各学校でやっていることを拝聴して、本当に素晴らしい取組だなというふうに、まず、感動と

ともに感謝申し上げたいと思っております。

まず、ICT環境につきましては、当たり前ですが、PCに触れているので、PCスキルアップにもつながってますし、先ほどありました総合学習という意味で、いろんな今までの授業ではないような授業をできるようになってきたというのはすごい成果かなと思っております。

一方で、野村先生がおっしゃっていたように、例えばせつかくあるものをフル活用するのであれば、外部講師とか、例えば課外授業とか、社会科学習とか、そういったのもICTを取り組んで、より効率的に、より気軽にできるようになったら、もっともっとよくなるんじゃないかな、なんていうふうに思っております。

あと、ICT環境で、これは保護者から言ってくれと言われたので、一つ、Teamsにプリンターを接続できないという現状で、これが困ると。家庭用のプリンターに接続できないがために携帯にそのファイルを落として、コンビニでプリントアウトしているという生徒がいっぱいいるみたいです。これは、紙提出を求められている課題もあるらしくて、紙提出、求められているのに印刷できないというのは、これは確かに問題だなと、そんなふうに思ったので、その辺は改善していただくと、よりいいんじゃないかなと、そんなふうに思います。

それから、教職員の先生方もぜひぜひ、ICTの根幹というのは今あるものをより簡便にできるようにすること。それから、ICTを使って、今までできなかったことをできるようにすること。この大筋2つだと思っているんですが、今あることを簡易にして、先生方には私は楽しめていただきたい。民間で働いている人たちと比較していいのかどうか分かりませんが、労働時間長過ぎると思っているので、その辺は、ぜひ先生方のもう少し楽にできるような仕組みができたらいいなと思っております。部活動なんかでは、このICT環境が整っていることで、いわゆる部長と先生方のやり取りをチャットでできるとか、部員同士で何かを共有するときにチャットを使えるとかという形で、その辺なんかもすごくいいかなと思っておりますし、今後、部活動が、先生方、土日しっかり休んでもらうように民営化していこうという中であれば、やはり外部の人とTeamsを共有できるような仕組みというのも重要になってくるのかな、なんて思いました。

それから、ICT、これは個人的な意見なんですけども、いろんな先生方がいると思うので、漏れなくPC使えるという先生方もいれば、ちょっと苦手なんだよなという先生方もいるかと思うので、そういった苦手な先生方には大変だと思うんですが、その辺も子供たちのために努力していただけたらうれしいなと、そんなふうに思っております。

それから、最後、先ほど原さんからあったように、子供たちがタブレットで遊んでいるのか、勉強しているのか分からないという、そんなようなお話もあったので、人間弱いですから、どうしてもやすきに走ると思うので、その辺を何かうまい仕組みつくれたらなど。例えば画面共有が親でもできる

とか、先生方でもできるとか、やらないと思うんですが、そういう仕組みだけでも、脅し文句次第ですけど、使っていただくのも効果的かな、なんていうふうに思っております。

いずれにしても、私が想像しているより千代田区のほうでICTの活動がこんなに進んでいると思ったので、本当にこのまま、野村先生も言っていたように日本一の教育環境になっていただけたらうれしいなとそんなふうに思うと同時に、一方で、いわゆる生成AIとかChatGPTなんていう言葉が新しく出てきて、じゃあ、それを国でも多分、都でも区でも、今後どういう方針でやっていくのかなんていうのは、今後の課題だと思うんですが、やはり情報の入ってくるスピードが、今まで昔の人が一生分かけて入ってくる情報を今は1日で入手できるなんていうふうに言われているような時代なので、その辺の情報の管理なんかも、先生方だけじゃなくて、子供たちも主体的にできるようになっていったら、このICTの取組もより有効な実績になるんじゃないかなんて思っております。以上です。ありがとうございます。

委員長

岡野委員、ありがとうございました。

学校や保護者のお立場から成果と課題について、いただいたお話を受け、指導課長より、お願いいたします。

山本委員

指導課長です。

まずは貴重なご意見ありがとうございました。私からも、時間の都合もありまして短い時間にはなりますけれども、少しお話をさせていただければと思います。

まずは、各学校では先生方、本当によく対応してくださっているなど感じております。ありがとうございます。子供たち一人一人にタブレットを配付しまして、2年半がたちますけれども、その2年半という短い時間の中で、本当に先生方、よく活用していただいて、子供たちにも浸透しつつあるかなと感じているところで、ここについては、教育委員会の立場で各学校にお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

先ほど来ちょっとお話の出ている、本区といたしましては、ICT利活用日本一というところで、教育長の標榜しているところでございます。何がどうなれば日本一かというところは人それぞれ判断難しいところではあると思っておりますけれども、本当に子供たちが深い学びのためにより効果的に活用できるようにというところで、しっかり区としては取り組んでいきたいというふうに思っております。そんな中、つい数か月前に某雑誌で発表されましたICTのハード面、ソフト面、教員のスキル面も含めた全国の自治体ランキングというのがあります。全国の自治体の中で現状、千代田区としては15位というようなランキングです。これを高いと取るか、低いと取るのかもそれぞれだと思っております。関東では3位というようなランキングになっております。まだまだ道半ばではありますけれども、様々な面で子供たちにとってICT利活用日本一を目指していきたいなと思っております。

そんな中、私としてもまだまだ解決すべき課題はあるなと思っております。それは、先ほど来出ております、学校間だったりですとか、教職員間一人一人のスキルの問題、活用の度合いの問題というのがあるのかなと思っております。そこについては、研修会等を通して、底上げをしていく必要があるかなと思っております。それから、ハード面のところについても、今日、こういって保護者の立場のお話も伺うことができて非常にありがたいなと思っておりますので、今後も様々なご意見をいただきながら、環境面についてもより一層充実していきたいなと思っております。

保護者の方のお立場で幾つか今後の課題というところでいただいているご意見の中で、私のほうからもお話をさせていただければと思っております。

まず、原会長のほうからお話いただきました、机が小さくて教科書、ノートを落としやすいですとか、タブレットを落としやすいというような問題につきましても、机の前の部分に10センチくらいですかね、そういったものをつけるような対応もしております、ちょっと反っているので、タブレットを落としにくいというような対応もさせていただいているところです。

それから、高田会長からお話をいただきました、渋谷区のような教育ダッシュボードにつきましても、本区でも心の天気というようなアプリケーションを使っておりまして、子供たちの毎日の状況を把握するように努めてはいるところです。ただ、この活用率、もっともっと高めていかなければいけないというような課題があるとも認識しておりますし、教育のビッグデータの今後の活用ということでも、現在、検討しているところでありますので、またしっかりと対応できるようにしていきたいなと思っております。

それから、岡野会長からいただきました、外部講師ですとか、校外学習のところにつきましても、実は結構、海外とオンラインを通じてやり取りをしたりとかというような事例もありますので、そういったところも各学校、今後も引き続き活用していったらいいなと思っております。

いずれにしても、今回、このように会長、保護者の皆様のお立場でご意見を伺えたということは非常にありがたい機会だったなと思っておりますし、教育委員会としても今後も引き続きご意見いただきながら、より一層、改善していきたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

委員長

指導課長、ありがとうございました。

これまでのお話を受けて、学経のお二人からご指導、ご助言いただきたいと思っております。お1人8分程度でお願いできればと思っております。

佐藤委員

初めに、佐藤先生、お願いします。

信州大の佐藤でございます。

本日はよろしくお願ひいたします。

私から皆様のお話を受けて、あるいは、千代田区ですと神田一橋中の助言をやらせていただいておりますので、そういった状況も含めてお話をさせていただきたいと思っております。

いろんなことを含めて、授業を変えていかなきゃいけないということ、例

えばタブレットで遊んでしまうとかというのは、端的に言いますと、授業がつまらない、ということが考えられます。授業が楽しいとか、課題追求しているとか、そういう状況でしたら、遊ぶという状況はあまり起きないと考えられます。というのが1つ目です。小学校低学年や中学年であれば、学級経営の話に直結するわけで、このICTの話であるとか、タブレットの話であるわけではないわけです。大事なことは、先生がここで一番頭フル回転するわけではなくて、子供たちが一番頭フル回転するような主体的な学びを進めていく必要があるのではないかとこのように考えているところでございます。

先ほど、教育長先生から文房具というお話がありましたが、中央教育審議会ではデジタル学習基盤特別委員会というのが始まっておりまして、もはや文房具ではなくて、全ての教育活動の学習の基盤というふうに位置付けていく必要があります。例えばランドセルが重いであるとか、電源が足りないであるとか、これまでの学校で構築されてきた環境の中でやられてきたわけですが、というわけじゃなくて、もう全ての活動の中でコンピューターを使うことが前提としてあるならば、このことが可能となる学習環境へと改善していく必要があるだろう。例えば富山県では、もうランドセルが重いからランドセルを軽くして、ほぼタブレット1個で持ち歩きましょうみたいな、そういう取組が始まったということが最近報道されておりました。そういった形で、今までの常識ではなくて、これからの常識で学校経営を捉え直していかないと、多分変わらないだろうというふうに考えております。

先ほど千代田区は関東では3位というお話ありましたが、民間から見たらまだまだだというふうに思っております。これだけ千代田区で、民間の方、関東も多い中で、最先端のICTの活用みたいなことは保護者の方々のほうがよく分かっておられるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひPTAとかも学校の運営に入りながら、デジタルをどう使っていくかみたいなことを、働き方改革も含めて、取り組んでいただければというふうに思っているのが、私から千代田区に対する期待でございます。

それから、学びのことにしましては、中央教育審議会では、子供一人一人を主語にする学習をしていきたいと思いますということですが、今までは、教師の主導で、教師の指導だったわけなので、比較的、教師が主導になっているような学びだったわけですが、子供たちが学び取っていくような、そういった学習をしていかなければならないということが言われているとおりで、個別最適な学びや協働的な学びを一体的に充実させていきたいと思いますというふうなお話がされているわけですね。その中で共通することは、自ら学習を調整していく、この自らというのは、先生が調整するのではなくて、子供自らが学習を調整していこうということとなっておりますので、先生が調整するのではなく、子供が調整するというのが、そういった方向性に向かっていかなければいけないというふうに捉えているところです。そう考えていくと、子供一人一人のペースやタイミングで学習をするスタイルであって、先

生が学習を調整するのではないということを目指して、小学校低学年から中学校3年生に向けてのカリキュラムを組んでいく、あるいは、そういった目標を全員で立てていくようなことを期待したいわけですね。そこでは、もう全てのことに子供を主語にして、学びを自分が調整していくということにこだわられるかどうかだというふうに思っておりますので、ここの価値観を、学校教育では授業観とか学習観というふうに言うわけですが、大きく転換していく必要があるということです。そのときのデジタルはどうするかという話になります。

例えば、教師が指導すること、それから支援、子供が自己調整という、そういった段階があるとすれば、先ほどから事務局のほうからもありましたけども、まだこの辺りという話がございました。ですけども、子供が自己調整していくという、ここの間ですね、ここが一番難しいと思っています。これも三井先生とよくお話しするんですけども、ここは大体分かるんですけども、この辺も大体分かるんですけども、こことこの間が非常に難しく、これはもう考え方、価値観を変えていかないと多分突破できないところだろうという話になっているところでございます。

昨日の神田一橋中も、授業を見せていただいて、その後、研修をやったんですけども、ここからここにどう変わっていくかということ先生方、非常に悩んでいて、研修終わってからも、校長室で質問あったらどうぞと言ったら、半分以上の先生が、ちょっと驚くぐらいすごい熱心に議論ができたわけですけども、こことこの間をどう考えていくかということをやっていくためには今までを捨てるのか、今までやってきたことを変えるのかということやっていかないと、恐らく僕は無理だというふうに感じております。それがいかに千代田区全体で本気が出せるかということに関わっているんじゃないのかなというふうに捉えているところでございます。

千代田区は、私、関わらせていただいて、やはり驚くことたくさんございます。ほかの自治体、いろんなところ行かせていただいておりますけども、千代田区だから可能なことというのはたくさんあるというふうに思いますので、期待を込めてお話をさせていただいた次第でございます。以上になります。

委員長

佐藤先生、ありがとうございました。

次に、三井先生、お願いいたします。

三井委員

山梨大学の三井でございます。お時間の限りがございますので、5分程度で私のほうからお話ができればなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、千代田区の取組をたくさん聞いてみて、まさにほかの地域をリードするような取組がたくさんあったと思います。ぜひそういった取組を続けていただいて、東京都内に限らず、全国を引っ張っていける自治体になっていただきたいなと思っております。

あわせて、本日の実践発表とか、保護者の意見とか、聞く中で、当然、今

後へ向けての課題もあろうかと思えます。ICTを日常化するまで使い倒しているかですね。そうしないとやっぱりその先に見えてくることがなかなか見えてこないなんてことがありますので、日常的に使い倒すということがもう前提なんだというのは、佐藤先生のお話にもあったとおりに思います。

あわせて、子供自身が学び方を選択しているのかという視点とか、児童・生徒が一番忙しいのかという視点で授業をする。そのためにも、子供を信じて、子供に委ねることがやっぱり授業改善の大きな視点なんではないかなと思っております。

また、子供同士がつながっているか、子供が何で今、協働しているのか、理由を言えるのかみたいところですね。先生がペアで話しなさい、グループでやりなさいではなくて、子供があの子の意見知りたいから協働するんだとか、そういったところも重視していく必要があると思えます。

また、今日、保護者からもありました、端末やメールとの付き合い方ですよ。また、健康面での留意みたいところは、やっぱり家庭も非常に関心を持っているところですので、学校でももちろん声をかけていく、でも、学校任せにしないで、家庭でも一緒に子供を見守っていけるという両輪が必要ではないかなと考えております。そこに教育委員会等がうまく入っていくということが大事かなと思えます。

このスライドは、先日、政府が出した新たな教育振興計画といったものになります。これから日本がどういった教育をやっていくのかということですね。これは抜粋版ですので、一部だけなんですけども、この中にもこれから何を頑張っていかなきゃいけないかということがたくさん示されていると思えます。その真ん中ですね、支援を必要とする子供のところです、ここ何て書いてあるかということ、長所や強みに着目する視点を重視するんだということが書かれております。まさにこれからはそろえる教育じゃなくて、伸ばす教育なんだよということを国としても明確に示しているんじゃないかなと思えます。そういった中でもICTを活用して、学びや交流の機会、アクセシビリティを向上するであるとか、一番下に書かれている、複線化する生涯、一人一人の子供たちの生涯にわたって、学び続ける力が必要、学び続ける学習者を育てていくんだといったものが、これから日本が目指すべき教育ではないかなと思えます。

そう考えていきますと、やっぱり学校ではもちろん1時間、1時間の授業があって、それをまとめている単元があって、そして教科があってみたいところが言われるんですけど、どうしてもそこだけを見てしまうと、先ほどお話ししたようなところというのはなかなかふだん意識しないかなと思えます。でも、学校を卒業する子供たちは、そこからは自分で学んでいかなきゃいけませんし、自分で力をつけて世の中を渡り歩いていかなきゃいけないようになった場合に、やっぱり大きな目標みたいなのがあると思うんですよ。数学の勉強を通じて話し方を学ぶ、国語の学習を通じて仲間の作文を読んで、そこから理解するとか、分かりやすく伝えるとか、そういった大きな目

標、汎用的な資質、能力というものをやっぱり子供も教師も意識して学習していかないと、算数が解けてよかった、理科の実験をやって楽しかった、それも大事なんですけど、でもそれを通じてもっと大きなことがあると思います。ぜひ家庭でもそういったところにも目を向けて、ちょっとテストの点悪かったとしても、そこだけではないことの価値を伝えていくということが必要なと思っております。

やっぱり授業改善の視点で一番大事なことというのは、意識改革に尽きると思います。この写真は、ある小規模校なんです。先生と生徒1人しかいないです。じゃあ、先生と毎日マンツーマンでやったら、この子はものすごい資質能力が高まるのかといたら、現場の先生方だとお分かりになると思います、そんなことはないんですよ。やっぱり先生から得られる情報というのは限界があるわけです。だから、友達と一緒に学んだりとか、ほかの考えに触れたり、インターネットで外の世界に触れたりということが大事になってきます。そうすると、やっぱり知識は先生が与えなきゃだけではなくて、友達との関わりの中で学ぶとか、開かれた世界の中とつながる中で学んでいくということを先生方も捉え直して、じゃあ、授業ってどうあるべきなのか、この子がどうやって情報を手に入れていけばいいのかということの中で、授業を考えていく、そのときにICTというものが非常に大事な基盤になってくるんだということに尽きるのではないかなと思っております。

私からは以上です。ありがとうございました。

委員長

三井先生、ありがとうございました。

皆様からのお話を受けて、少し深掘りした議論を進めたいところではございますが、お時間となりますので、本日の意見交換会はここまでにしたいと思います。短い時間ではございましたが、各委員それぞれの立場から貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考に事務局で今後の取組などを整理し、より一層の教育ICTの推進を図ってまいりたいと思います。

また、本日のこのICT委員会についてですが、議事要旨や資料などをホームページで情報発信していく予定でございます。後日、事務局から議事録もしくは議事要旨を送付しますので、公開の前提でご確認をしていただければと思います。

最後に、事務局から連絡事項をお願いします。

事務局

まず、1点目です。報償費の支払いについてです。学識経験者、保護者代表の皆様には口座振替依頼書を後日、返信用封筒にてご返信をお願いいたします。オンラインでご出席の皆様については、郵送をいたしますので、お手元に届きましたら、お願いいたします。報償費は指定いただいた口座に後日、お振り込みいたします。

2点目です。次回の日程についてです。次回は2月頃に実施したいと考えております。改めて皆様には日程調整をさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局からは以上です。

委 員 長

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、第1回千代田区教育ICT推進委員会を閉
会いたします。皆様、ありがとうございました。